慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「慶應義塾醫學所入門帳」について
Sub Title	
Author	杉本, 治子(Sugimoto, Haruko)
Publisher	三田史学会
Publication year	1954
Jtitle	史学 Vol.27, No.2/3 (1954. 5) ,p.394(492)- 395(493)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑報 慶應義塾史研究特輯
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19540500-0394

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

もあつたというが、それにしても入社氏名が教員級のもののみとは不可解といわねばなるまい。

そこで、試みに前記小泉以下一四名の入社年月日たる明治七年六月二七日について檢討してみるに、これはまさしく三田演說會發會の日に他ならぬ。そればかりか、同夜會した社員一四名――小幡篤次郎、中上川彦次郎、森下岩楠、小泉信吉、和田義郎、福澤諭吉、松山棟庵、甲斐織衞、小川駒橘、須田辰次郎、海老名晋、猪飼麻次郎、小杉俊次郎、安岡雄吉（「三田演說第百回の記」）というのが、順序こそ不同にせよ、右入社帳記載の氏名とぴつたり符合する。いま、これをさらに押しすすめて、それ以後の牛場卓藏（明治七年七月四日入社）、濱野定四郎（同二五日入社）、渡邊常（恒）吉（同八月一五日入社）、莊田平五郎（同九月二六日入社）、高木怡莊（同一一月一四日入社）、四屋純三郎（同七日入社）、岩田蕃（同日入社）、中野松三郎（同二八日入社）、谷田鼎（明治八年一月二三日入社）の九名全員につき、「三田演說日記」と照合してみると、この記載はいよいよ三田演說會の入社名簿と推定されてきそうである。即ち、右の入社年月日は三田演說會記錄による同會入社許可の年月日、もしくは少くともその許可の次の會の年月日と完全に一致するのである。入社を許されて、次の會から出席することになつたものとみておそらく差支えあるまい。

こうなると、右の入社帳ははじめ三田演說會の入社名簿用に使われていたのが中斷して、のち明治十二年、この法律學校が出來るに及び、余白を利して再使用されるに至つたものではないかと考えられる。これにつき、富田正文氏もいち早く、それが三田演說會關係の記錄ではあるまいかと予測されたそうであるが、氏の炯眼に服する次第である。（二八、一一、六）　（會田倉吉）

「慶應義塾醫學所入門帳」について

文久三年を以て第一號とする慶應義塾の入門帳は、美濃紙に、入塾者の姓名、年齡、入社年月日、住所、身分、保證人等の欄が印刷されてあり、入門の際一頁に一人宛、毛筆で記入したものであるが、その整理中、號數も題箋もない入門帳が一部あつた。表紙は藍色の和紙で縱二十六糎、横十八糎、厚さは二・五糎で綠色の絹糸で綴じてある。入門者は明治六酉年十月卅一日石井玄龍を以てはじまり、同十二年十一月六日嶋田均で終る總人數二九七名で余白は最後の半頁のみである。普通の入門帳は大體一册が一年か一年半ぐらいであるがこれに限つて六年間にわたつている。しかもこの六年間というのは丁度慶應義塾醫學所の設立から廢校に至るまでの年限と一致するので同所の入門帳ではないかと思い、しらべて見ることにした。「慶應義塾五十年史」三一五頁に「慶應義塾醫學所」の項があるがそれによると

慶應義塾醫學所は、明治六年十月、天下未だ西洋醫學の何物た

るを知る者甚だ稀なるの時に於て、義塾社中松山棟庵、新宮涼園二氏に依り、義塾構内に創設せられしものにして、一時生徒の數一百余名に達せしことあり、頗る盛大なりしも、其後間もなく、大阪を初め、各地に官立の設立に係る多數の醫學校、病院起りたれば復た往年の如く、本所の必要を感ぜざるに至り、終に明治十三年六月限り、斷然廢止することと爲りしが、本所に於て業を受けたる醫生の數實に三百余名の多きに達し、名醫と爲れる者少からずして云々

とあり、教師及び役員の欄には左の人々の名がある。

松山棟庵　新宮涼園　杉田　武　小泉芳五郎
上田藤太　前田政四郎　松山誠二　沖野嘉太郎
江島春熙　宮田　溫　片倉壽榮　平野庄三郎

これに依つて見ると設立の明治六年十月は、入門者第一頁のそれと一致し、又明治十三年廢校になつたものとすれば、最終入門者は明治十二年十一月あたりで打切にしたとも考えられる。又教師中に出ている宮田溫、片倉壽榮、前田政四郎等はいずれも同入門帳初期の入塾生である。尙保證人の名を見ると教師である松山棟庵、新宮涼園、杉田武等の名は屢々見えている。又醫生三百名とあるのも二九七名の人數とほゞ一致しているので大體間違ないものと思われるが此處に今一つ「醫學所入門帳」なるものがあつたということが更に明らかになる資料がある。それは圖書館にある「明治六年ヨリ義塾邸内ニ設立セラレタル慶應義塾醫學所規則類」という寫本によるものである。その記事中「醫學校ニ關スル調査科目」という項があり、醫學所のことに就いて何處からか塾當局に對して解答を求めて來たものゝ寫しがあるがその問合せは第十項まであつて、そのうちの第七項に

年々（可成ハ月々）入校シタル生徒ノ員數

第十項に

創立以來入校シタル生徒一統ノ姓名（可成ハ族籍年齡等）但シ入校ノ前後ニ從フ

とあり、塾側の回答として右の二項に對し

御面倒ナカラ別冊入社錄御展覽ヲ乞フ

とある。當時はまだ題箋が完全についていて、これが醫學所入社錄（卽ち入門帳）であることは既定の事實であつたのであろう。

（杉本治子）

慶應義塾理事委員について

明治十四年一月廿三日に慶應義塾では、「慶應義塾假憲法」に從つて、理事委員廿一名を選擧した。理事委員は、後の評議員に當るもので毎年一回選擧されたものらしいが、今までの塾内の記錄では十四年以後のものは見當らなかつた。先づ「慶應義塾五十年史」四四五頁にある義塾假憲法及び第一回假理事委員の氏名を